帝京科学大学紀要 Vol.11（2015）pp.169-178

看護学科の初年次教育における助言教員ゼミを通しての学生の学び（第２報）
― 満足度に影響する要因 ―

[1] 岡村千鶴　[1] 清野純子　[1] 堀之内若名　[1] 加藤基子

[1] 帝京科学大学医療科学部看護学科

Student's learning through basic seminars during the first-year of education
in a nursing department (2nd Report)
− Effect factors on the degree of student's satisfaction −

[1] Chizuru OKAMURA　[1] Junko SEINO　[1] Wakana HORINOUCHI　[1] Motoko KATO

Keywords：看護基礎教育　初年次教育　基礎ゼミ　助言教員ゼミ　満足度

Ⅰ．はじめに

2008 年 12 月、中教審大学分科会制度・教育部会は、『学士課程教育の再構築に向けて』において、「入学者選抜をめぐる環境変化、高等学校での履修状況や入試方法の多様化等を背景に入学者の在り方も変容しており、総じて、学習意欲の低下や目的意識の希薄化などが顕著となっている」[1] と答申し、「学習の動機づけや習慣形成に向けて、初年次教育の充実を図り、学士課程全体の中で適切に位置づける」[2] ことを提言した。以来、入学者に対し大学生活への早期適応を促し、大学での学習に必要なスキルや態度を身につけることを目的とした初年次教育は、大学教育に不可欠な教育プログラムとして認識され普及してきている。

本学では、初年次教育の一環として１年前期に「基礎ゼミ」が開講されており、学生の学問上の成長を援け人間形成を育むことを目的として助言教員制度も導入されている。本看護学科では初年次教育としての基礎ゼミを重視し、平成 25 年度より基礎ゼミの中の７～８コマを活用し、全教員が関わる少人数制の助言教員ゼミを実施している。「助言教員ゼミ」は、助言教員と数名の学生によるグループデスカッション・グループワークを通し、自らテーマを設定する力、文献を探索し活用する力、調査しまとめて発表する力の３つの力を養うことを目標としている。加えて、学生間および助言教員との相互作用を通し、医療人として基盤となる自己管理能力、他者と協調・協働して行動できる能力及び倫理的態度を培うことも志向している。

第１報 [3] では、助言教員ゼミを通しての学生の学びとして、以下５点が明らかとなった。①情報伝達を工夫し、調べた内容を分かりやすく伝えるプレゼンテーション力が形成された ②達成感を獲得し学習意欲が喚起され、今後の学習への動機づけがなされた ③社会人基礎力の能力要素である「主体性」「課題発見力」「発信力」「傾聴力」「状況把握力」「働きかけ力」の必要性が認識でき、涵養されつつあった ④グループワークの体験を通して、他者と協調・協働する重要性を認識した ⑤倫理的課題を包含したテーマを通じ、倫理について掘り下げて思索し、倫理的態度を培うプロセスを体験した。

授業評価アンケートにおいては、昨年度に引き続き約９割の学生が満足・ほぼ満足と回答した。そこで第２報では、どのような要因が学生の満足度に影響するのか明らかにし、看護基礎教育における今後のより効果的な基礎ゼミの内容構成及び方法を検討するための基礎資料とすることを目的とする。

Ⅱ．研究方法

1. 対象者

平成 26 年度に入学した本学看護学科１年生 91 名

2. 調査期間

平成 26 年６月３日～平成 26 年７月 23 日

3. 調査方法

1）調査表

（1）自由記述質問紙

調査は、以下の質問紙で行った。「プレゼンテーションから学んだこと：良かった点あるいは今後の

参考になった点（問1）、改善したらよい、あるいはこんな工夫があるのではというアドバイス（問2）」、「ゼミに対する良かった点、改善点などの意見・提案（問3）」について、自由記述で回答を求めた。

(2) 授業評価アンケート

昨年度、本学の授業評価アンケートを参考に、教員の授業展開に加え、学生自身の取り組みも評価できるように工夫したもの[4]で13項目を5段階評定（大変良くできた、できた、普通、あまりできなかった、できなかった）で尋ねた。

2）助言教員ゼミの進め方

助言教員ゼミは、4名の運営委員を中心に企画し、全教員が共有できるよう連携しながら実施した。グループは、6～7名の学生と2名の助言教員で構成し、14グループとなった。

今年度のゼミの進め方は、1コマ増やし次のように進めた。1回目に全体でのガイダンス、2回目にグループ毎のゼミで取り組むテーマの検討、3～6回目にグループ毎の文献検討・調査・プレゼンテーション準備、7・8回目に全体でのプレゼンテーションの実施とした。なお、今年度のプレゼンテーションは2コマ続きで実施できるよう時間割調整を行った。

プレゼンテーションは、1グループの発表時間7分、質疑応答2分と設定した。プレゼンテーションに際しては、学生が聴く視点を持ち、より良く聴けることを目的とし、昨年度作成した「プレゼンテーション評価表（10項目を3段階評定（よい、普通、もう少し）」[5]を実施した。プレゼンテーション開始前に学生にその趣旨と記載方法を説明し、学生は発表グループ毎にプレゼンテーション評価表を記入した。

プレゼンテーション終了時に、自由記述質問紙により「プレゼンテーションから学んだこと」と「ゼミに対する意見・提案」について記載を得た。続いて、「授業評価アンケート」[4]を実施した。

4. 分析方法

分析対象は、プレゼンテーション終了後に学生が記載した「プレゼンテーションから学んだこと：良かった点・参考になった点（問1）、改善・工夫等のアドバイス（問2）」、「ゼミに対する良かった点・改善点（問3」および「授業評価アンケート」である。

問1～3の記述内容の分析は、Berelson, B. の内容分析[6]の手法を用いた。まず、各学生の自由記述式質問に対する記述全体を文脈単位、1学び場面を記録単位とした。次に、個々の記録単位を意味内容の類似性に基づき分類し、意味内容が同じ記録単位を集約し同一記録単位群とした。さらに同一記録単位群の類似性に基づきカテゴリを形成し、記述を忠実に反映したカテゴリ名をつけた。加えて、各カテゴリに包含された記録単位の出現頻度を数量化し、カテゴリ毎に集計した。最後に、問1～3で抽出したカテゴリ間の関連性を検討した。なお、カテゴリの信頼性を確保するために、内容分析を用いた研究経験を有する看護学研究者2名によるカテゴリ分類への一致率をScott, W. A. の式[7]に基づき算出し、検討した。信頼性を確保しているかどうかを判断する基準は、先行研究の結果に基づき一致率70%以上とした[8]。

「授業評価アンケート」は、表計算ソフトエクセルにて記述統計量を算出した。

5. 倫理的配慮

調査協力を得るにあたり、対象者が「自由記述質問紙」および「授業評価アンケート」を提出後に、これを調査資料として用いること、調査目的・方法、個人情報の保護、調査協力の任意性、調査協力の有無による成績への影響がないことを文書と口頭で説明した。その上で、同意書への署名と回収箱への回収をもって調査協力の同意とした。なお、本研究は帝京科学大学倫理審査委員会の承認を得た。

Ⅲ．結果

1. 授業評価アンケート

アンケートの回収率は100%であった。Fig. 1-1, 1-2にアンケート結果を示す。

1）学生の取り組みについて

アンケート結果では、大変良くできた・できたと回答した割合が80%以上であった項目は、項目1「遅刻や欠席をせずに出席できましたか」、項目2「積極的に参加しましたか」、項目3「グループ内で協力できましたか」であった。

2）教員の授業展開について

項目6「あなた自身にとってこの授業レベルはどう感じられましたか」について、ちょうど良いと回答した割合が71.4%であった。それ以外のすべての項目において、適切だった・ほぼ適切だった（大変そう思った・そう思った）と回答した割合が80%以上であり、項目8「総合的にみて、この授業にどの程度満足しましたか」について、満足・ほぼ満足と回答した割合は86.9%と高かった。

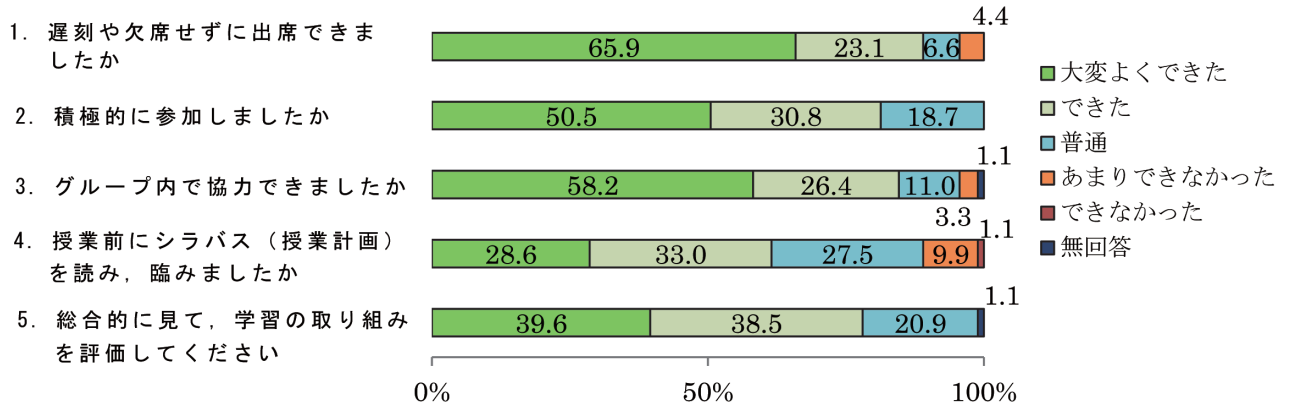


Fig. 1-1　助言教員ゼミ授業評価アンケート【学生の取り組み】

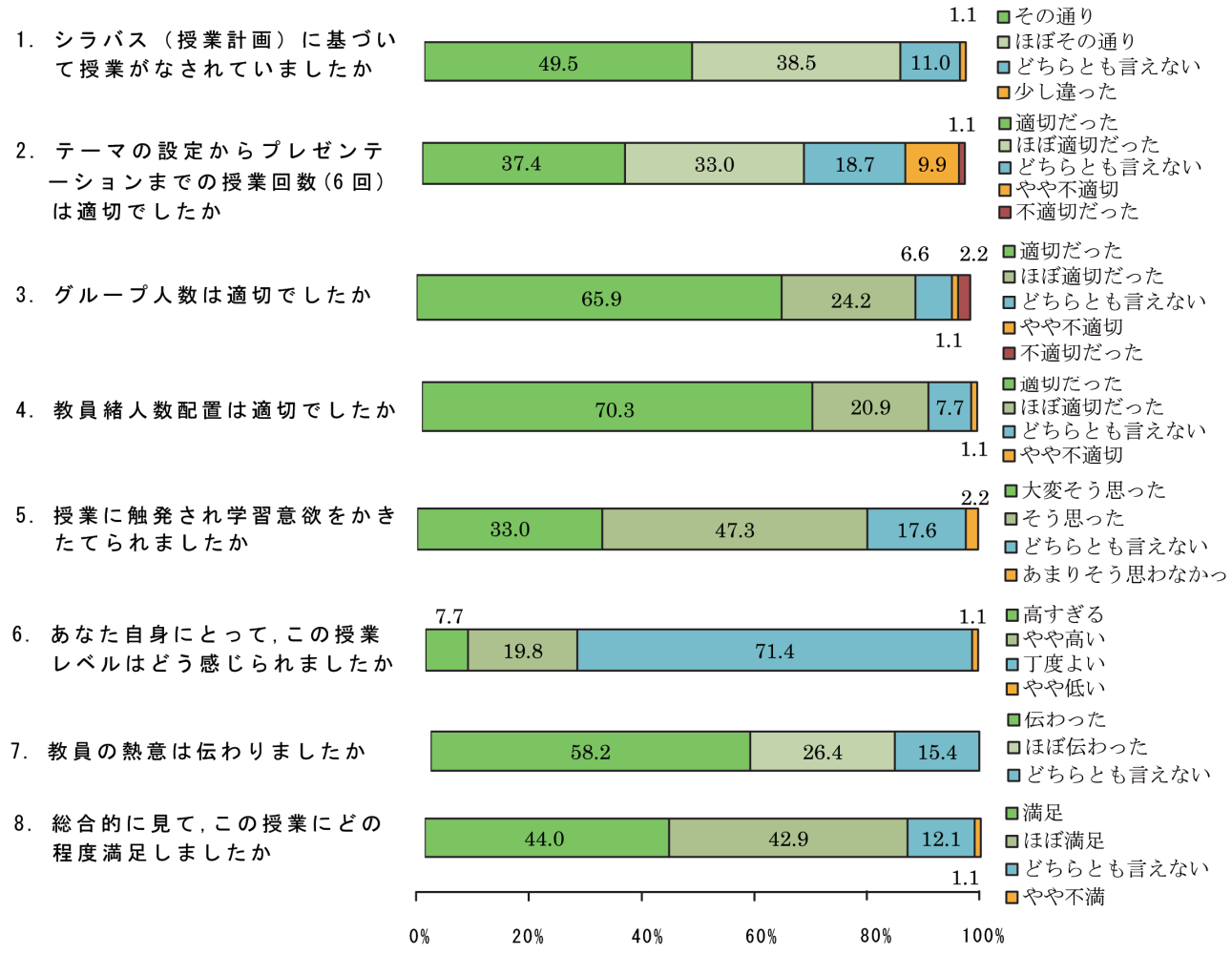


Fig. 1-2　助言教員ゼミ授業評価アンケート【教員の授業展開】

2.「プレゼンテーションから学んだこと」と「ゼミに対する良かった点・改善点」について

分析対象者は、調査協力の同意が得られた89名（98%）であった。「プレゼンテーションから学んだこと」の記述は、良かった点･参考になった点（問1）については308記録単位に分割できた。改善・工夫等のアドバイス（問2）については182記録単位に分割できた。ゼミに対する良かった点・改善点（問3）は208記録単位に分割できた。それぞれの記録単位を意味内容の類似性に基づき分類し、分析した結果、問1について9カテゴリ（Table 1）が、問2については6カテゴリ（Table 2）、問3については11カテゴリ（Table 3）が形成された。以下、記録単位数の多いものから順に結果を論述する。なお、【　】はカテゴリ、『　』は同一記録単位群、「　」は記述例を示し、〔　〕内は、各カテゴリを形成した記録

Table 1　プレゼンテーションから学んだこと【問1：良かった点・参考になった点】

総記録単位数　308

カテゴリ名	総数	（%）	同一記録単位群	数
1. 発表内容・構成	120	(39.0)	役立つ知識・情報が得られた	36
			身近な内容で興味が持てた	25
			テーマ選択の動機・方法・結果・考察・結論が述べられている	18
			内容が掘り下げられている	7
			まとめ方の工夫・多様さを学べた	7
			発表時間を守っている	7
			様々な視点から見ている	6
			授業での学習内容を活用し関連づけている	5
			疑問が解決した	4
			参考文献・出典を明記している	3
			論文を含む文献を活用している	2
2. スライド・配布資料の工夫	72	(23.4)	絵や写真・動画を活用している	31
			図表・グラフを効果的に使用している	15
			レイアウトを工夫している	8
			自己診断表がついている	7
			簡潔にまとまっている	4
			スライドとは異なる内容で配布資料を工夫している	3
			文字の大きさ・配色が適切である	2
			見やすいアニメーションがついている	2
3. 発表方法	50	(16.2)	話し方の工夫(問いかけ，同意を求める，抑揚など)をしている	14
			声の大きさ・速度が適切である	9
			スライドを効果的に使用し見やすく分かりやすい	9
			プレゼンテーションの方法を学べた	7
			分かりやすい具体例を示している	6
			聴き手のことを考えた分かりやすいプレゼンテーションである	5
			レーザーポインターを活用している	2
			用語を分かりやすく説明している	2
			気持ちの準備が必要であると学べた	1
4. 良好なグループダイナミクス	22	(7.1)	意見交換がなされた	8
			分担・連携がなされた	8
			考えを深められた	2
			上手く時間を使えた	2
5. 今後の学習への動機づけ	17	(5.5)	興味を引き出すスライド・配布資料作りに活かしたい	7
			今後の学習に活かしたい	6
			もっと知りたい	4
6. 達成感	11	(3.6)	充実感・満足感を得た	7
			自分なりに創造力を培えた	4
7. 質疑応答	11	(3.6)	質問に対し的確な回答をしている	5
			質問を想定した準備が必要であると学べた	4
			活発な質疑応答がなされた	2
8. 教員の助言	3	(1.0)	ゼミで教員からの適切な助言があった	2
			プレゼンテーションのコメントが学習になった	1
9. 運営方法	2	(0.6)	聴き易いプログラム構成である	1
			見やすい会場である	1

単位とそれが記録単位総数に占める割合を示す。

1）プレゼンテーションから学んだこと：良かった点・参考になった点（問 1）について（Table1）

抽出された 9 カテゴリは、【発表内容･構成】【スライド･配布資料の工夫】【発表方法】【良好なグループダイナミクス】【今後の学習への動機づけ】【達成感】【質疑応答】【教員の助言】【運営方法】であった。

2）プレゼンテーションから学んだこと：改善・工夫等のアドバイス（問 2）について（Table2）

抽出された 6 カテゴリは、【発表方法】【スライド･配布資料の工夫】【発表内容・構成】【グループワークの取り組み方】【質疑応答】【運営方法】であった。

3）ゼミに対する良かった点・改善点（問 3）について（Table 3）

抽出された 11 カテゴリは、【ゼミ活動の満足感・達成感】【教員のかかわりに対する満足感】【ゼミ活動のすすめ方】【ゼミへの要望】【ゼミの意義についての気づき】【プレゼンテーションを通しての学び】

Table 2　プレゼンテーションから学んだこと【問 2：改善点・工夫等のアドバイス】

総記録単位数　182

カテゴリ名	総数	（%）	同一記録単位群	数
1. 発表方法	58	（31.9）	発表の練習が必要である	12
			発表の態度を意識すると良い	7
			パワーポイントと発表を一致させると良い	7
			発表の話し方を工夫する(抑揚、滑舌など)と良い	7
			用語をわかりやすく説明する必要がある	6
			発表の時間配分・管理を適切にすると良い	5
			わかりやすく発表できると良い	4
			実例や実演があると良い	3
			発表者の人数調整が必要である	2
			伝えたいという気持ちで発表することが大切である	2
			聴きやすい速度で話す必要がある	2
			ポイントを押さえ発表できると良い	1
2. スライド・配布資料の工夫	42	（23.1）	文字の大きさや1枚の情報量を考慮する必要がある	16
			わかりやすい図やイラストを用いてスライドを作成できると良い	14
			専門用語は配布資料・スライドに説明を加える必要がある	3
			見やすい配布資料にできると良い	3
			スライドの配色を考慮する必要がある	3
			知らべたことをわかりやすくまとめることが必要である	2
			興味を引き付ける資料が作れると良い	1
3. 発表内容・構成	31	（17.0）	テーマの動機・方法・考察・結論が必要である	9
			充分に調べる必要がある	9
			テーマと内容を一貫させる必要がある	5
			今後の課題が必要である	3
			出典・参考文献を載せる必要がある	3
			発表内容には根拠が必要である	1
			時間内に発表できるよう内容を精選する必要がある	1
4. グループワークの取り組み方	22	（12.1）	グループワークの参加度・役割分担を公平にする必要がある	9
			グループワークを充実させてまとめられると良い	4
			適切なテーマを設定する必要がある	4
			テーマの調べ方を工夫する必要がある	2
			グループワークの時間を増やしたほうが良い	2
			順序立てて進めることが大切である	1
5. 質疑応答	20	（10.9）	質問に対する適切な回答をする必要がある	8
			予測した質問への回答準備が必要である	6
			質問する人が固定されないほうが良い	3
			質問が少ない発表への配慮が必要である	1
			質問するのはよいことであるという考え方が必要である	1
			コメントでは改善点も述べると良い	1
6. 運営方法	9	（5.0）	移動や質疑応答をスムーズに行えると良い	4
			発表時間をふやしたほうが良い	2
			質疑応答の時間を増やして学生コメントも入れ込むと良い	1
			反省会のようなゼミがあると良い	1
			聞くことに集中できる様な評価項目数にすると良い	1

Table 3　ゼミに対する良かった点・改善点などの意見・提案（問 3）

総記録単位数 208

カテゴリ名	総数	（%）	同一記録単位群	数
1. ゼミ活動の満足感・達成感	73	(35.0)	皆が意見を出し合い討論できた	15
			グループワークの方法が学べて良かった	12
			各々が役割を果たしていて良かった	8
			協力し合うことができた	7
			時間内に効率良くグループワークができた	6
			良い発表ができた	6
			よくまとめられた	5
			深く調べ話も深くできた	2
			充実していて楽しかった	3
			目標を立て計画的に進められた	3
			調べたことを発表するのは新鮮だった	2
			グループ内で考えることに挑戦できた	1
			インターネット社会の中で文献を主として学ぶことができ良かった	1
			成長できた	1
2. 教員のかかわりに対する満足感	34	(16.3)	的確なアドバイスがあった	16
			意見調整や進行の手助けがあった	6
			近い距離感で相談・指導を受けられた	4
			意欲を引き出そうとしてくれた	3
			話し合いを尊重してくれ自由に討論できた	2
			資料を提供してくれた	1
			熱意を感じた	1
			物品を貸し出してくれた	1
3. ゼミ活動のすすめ方	34	(16.3)	計画性を持つ	7
			偏りなく役割分担する	5
			自主的・積極的に取り組む	5
			情報や課題を共有・確認する	4
			自分の意見を出していく	4
			時間の管理をする	3
			本や文献を利用する	2
			テーマ・目的からブレないように書き出す	2
			早い段階でたくさんの意見交換をする	1
			掘り下げて調べる	1
4. ゼミへの要望	18	(8.7)	時間が足りない	9
			発表の時期がテストや実習期間と迫っている	4
			すべての時間に助言教員は必要ない	2
			交流の場が増えればさらに楽しくなる	1
			発表時間に余裕がない	1
			教員がいると話せなくなる	1
5. ゼミの意義についての気づき	13	(6.3)	新しい知識や発見があった	5
			ゼミがどういうものか分かった	2
			他者の意見を聞け視野が広がった	4
			卒論の練習になる時間であった	1
			学生の自主性や責任感が高まる	1
6. プレゼンテーションを通しての学び	12	(5.8)	興味を引く身近なテーマ設定が良かった	4
			発表の工夫が学べた	4
			スライド・配布資料の工夫が必要である	3
			まとめや課題を記載する	1
7. グループの団結力	6	(2.9)	仲良くなれた	5
			グループのまとまりが生まれた	1
8. 教員への要望	6	(2.9)	アドバイスは早い時期にして欲しい	2
			担当していない部分について追及しないでほしい	1
			もっと進むように促してほしい	1
			最初のみ役割を決めてほしい	1
			役割を果たしていない人への指導をしてほしい	1
9. 今後の学習への動機づけ	5	(2.4)	チーム活動に生かしたい	3
			次のグループワークに生かしたい	1
			調べることができなかったことも調べたい	1
10. グループワークを通して培われたスキル	4	(1.9)	話し合いができるようになった	2
			積極的に発言できるようになった	1
			グループワークを進める力がついた	1
11. グループワークの大変さ	4	(1.9)	意見がまとまらない	2
			進み方が遅く心配だった	1
			時間の調整が困難である	1

【グループの団結力】【教員への要望】【今後の学習への動機づけ】【グループワークを通して培われたスキル】【グループワークの大変さ】であった。この11カテゴリは、今年度の分析で新たに抽出されたカテゴリであるため、以下に詳述する。

(1) 【ゼミ活動の満足感・達成感】〔73記録単位(35%)〕：このカテゴリは、11項目の同一記録単位群から構成された。『皆が意見を出し合い討論できた』『グループワークの方法が学べた』『各々が役割を果たしていた』『協力し合うことができた』『時間内に効率よくグループワークができた』『深く調べ話も深くできた』『グループ内で考えることに挑戦できた』などグループワークに対する満足感に関する内容と『良い発表ができた』『良くまとめられた』『成長できた』など達成感に関する内容が抽出された。*「皆で協力でき討論することが楽しかったので自分たちの糧になった」「発表が終わった後の達成感がとても感じられた」*などの記述から形成された。

(2) 【教員のかかわりに対する満足感】〔34記録単位（16.3%)〕：このカテゴリは、8項目の同一記録単位群から構成され、『的確なアドバイスがあった』『意見調整や進行の手助けがあった』『近い距離感で相談・指導を受けられた』『意欲を引き出そうとしてくれた』『話し合いを尊重してくれ自由に討論できた』『資料を提供してくれた』『熱意を感じた』などが抽出された。*「適度に指摘をしてもらうことによって、グループ内でじゃあ次どうしようなどと話し合うのにとても良かった」「グループ内で考えても良くわからない点をすぐ相談できとても良かった」*などの記述から形成された。

(3) 【ゼミ活動のすすめ方】〔34記録単位（16.8%)〕：このカテゴリは、10項目の同一記録単位群から構成され、『計画性を持つ』『偏りなく役割分担する』『自主的・積極的に取り組む』『情報や課題を共有・確認する』『自分の意見を出していく』『時間の管理をする』などが抽出された。*「積極的に行動する人に負担が多くかかってしまっていた」「話し合いの中で理解度の差ができ、どのようにまとめるかのずれが生じた。全員が同じレベルで理解しているかを確認する必要があった」*などの記述から形成された。

(4) 【ゼミへの要望】〔18記録単位（8.7%)〕：このカテゴリは、7項目の同一記録単位群から構成され、『時間が足りない』『発表の時期がテストや実習期間と迫っている』『すべての時間に助言教員は必要ない』『交流の場が増えればさらに楽しくなる』などが抽出された。*「8コマだと発案、まとめ、発表まで時間が足りなかった」*などの記述から形成された。

(5) 【ゼミの意義についての気づき】〔13記録単位（6.3%)〕：このカテゴリは、5項目の同一記録単位群から構成され、『新しい知識や発見があった』『ゼミがどういうものかわかった』『他者の意見を聴け視野が広がった』などが抽出された。*「ゼミとは何かをこの授業を通してわかった」*などの記述から形成された。

(6) 【プレゼンテーションを通しての学び】〔12記録単位（5.8%)〕：このカテゴリは、4項目の同一記録単位群から構成され、『興味を引く身近なテーマ設定が良い』『発表の工夫が学べた』などが抽出された。*「発表する時のまとめ方や留意点を学ぶことができ、今後に生かしていけるものばかりで良かった」*など記述から形成された。

(7) 【グループの団結力】〔6記録単位（2.9%)〕：このカテゴリは、『仲良くなれた』と『グループのまとまりが生まれる』の2項目の同一単位群に集約された。*「グループを通して関わりが広まったと思うし、さらに８コマの話し合いを通して仲が良くなっているというように感じることができた」*などの記述から形成された。

(8) 【教員への要望】〔6記録単位（2.9%)〕：このカテゴリは、5項目の同一記録単位群から構成され、『アドバイスは早い時期にしてほしい』『担当していない部分について追及しないでほしい』『もっと進むように促してほしい』『最初のみ役割を決めてほしい』『役割を果たしていない人への指導をしてほしい』が抽出された。*「個人的には、最初から時間が足りないと思っていたので、ゼミ中に話し合いがもっと進むように促してほしい」*などの記述から形成された。

(9) 【今後の学習への動機づけ】〔6記録単位(2.9%)〕：このカテゴリは、3項目の同一記録単位群から構成され、『チーム活動に生かしたい』『次のグループワークに活かしたい』『調べることができなかったことも調べたい』が抽出された。*「今回身につけることができたものや、改善すべき点を次のグループ学習に生かしていきたい」*などの記述から形成された。

(10)【グループワークを通して培われたスキル】〔4記録単位（1.9%)〕：このカテゴリは、3項目の同一記録単位群から構成され、『話し合いができるようになった』『積極的に発言できるようになった』『グループワークを進める力がついた』が抽出された。*「1回1回の授業でどんどん話し合いができるようになった」*などの記述から形成された。

(11)【グループワークの大変さ】〔4記録単位（1.9%)〕：このカテゴリは、3項目の同一記録単位群から構成され、『意見がまとまらない』『進み方が遅く心配だった』『時間の調整が困難である』が抽出された。*「時間がない中で作業や話し合いの時間を設けることがとても大変でした」*などの記述から形成された。

4）カテゴリ間の関連性

満足度に影響する要因を探索するために、問1～3で抽出されたカテゴリ間の関連性について、意味内容の類似性に基づき分類した(Fig. 2)。その結果、問1～3に共通するカテゴリとして、4つの大カテゴリ≪発表内容･構成（151記録単位）≫≪スライド･配布資料の工夫（114記録単位）≫≪発表方法（108記録単位）≫≪グループワーク力の実感（58記録単位）≫が抽出された。

≪発表内容･構成≫については、問1-1【発表内容･構成（120記録単位)】と問2-3【発表内容･構成（31記録単位)】は全く同一カテゴリであり、問3-6【プレゼンテーションを通しての学び(5記録単位)】は、同一記録単位群の内容から、【発表内容・構成】と分類でき、この大カテゴリに含めた。

また、≪スライド･配布資料の工夫≫については、問1-2【スライド・配布資料の工夫（72記録単位)】と問2-2【スライド･配布資料の工夫（42記録単位)】は全く同一カテゴリであり、問3-6【プレゼンテーションを通しての学び（3記録単位)】は、同一記録単位群の内容から、【スライド・配布資料の工夫】として分類でき、この大カテゴリに含めた。

≪発表方法≫については、問1-3【発表方法（73記録単位)】と問2-1【発表方法（58記録単位)】が同一カテゴリであり、問3-6【プレゼンテーションを通しての学び（4記録単位)】は、同一記録単位群の内容から、【スライド・配布資料の工夫】として分類でき、この大カテゴリに含めた。

≪グループワーク力の実感≫については、問1-4【良好なグループダイナミクス（22記録単位)】問2-4【グループワークの取り組み方（22記録単位)】

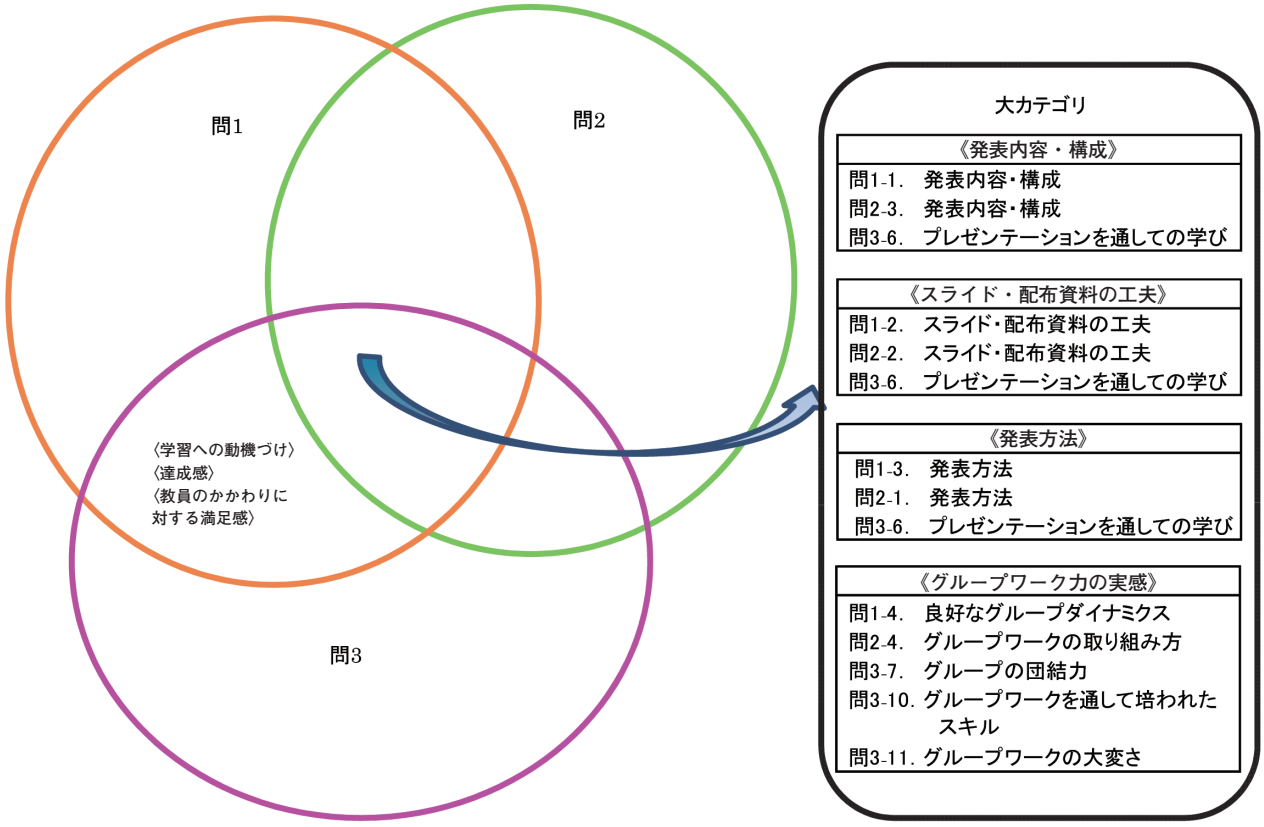


Fig. 2　カテゴリ間の関連性

問 3-7【グループの団結力（6 記録単位）】問 3-10【グループワークを通して培われたスキル（4 記録単位）】問 3-11【グループワークの大変さ（4 記録単位）】が、グループワープ力の実感という点で共通した意味内容を有していることから、≪グループワーク力の実感≫と命名した。

また、「プレゼンテーションから学んだこと：良かった点・参考になった点（問 1）」と「ゼミに対する良かった点・改善点」（問 3）」に共通するカテゴリとして、【今後の学習への動機づけ（22 記録単位）】【達成感（84 記録単位）】【教員の関わりに対する満足感（37 記録単位）】が抽出された。

【今後の学習への動機づけ（22 記録単位）】については、問 1-5【今後の学習への動機づけ（17 記録単位）】と問 3-9【今後の学習への動機づけ（5 記録単位）】の同一カテゴリから構成された。

【達成感（84 記録単位）】については、問 1-6【達成感（11 記録単位）】と問 3-1【ゼミ活動の満足感・達成感（73 記録単位）】が、達成感という点で共通した意味内容を有していることから、【達成感】に統合した。

【教員のかかわりに対する満足感（37 記録単位）】については、問 1-8【教員の助言（3 記録単位）】と問 3-2【教員のかかわりに対する満足感（34 記録単位）】が、教員のかかわりに対する満足感という点で共通した意味内容を有していることから、【教員のかかわりに対する満足感】に統合した。

5）カテゴリの信頼性

看護学研究者 2 名によるカテゴリ分類への一致率を Scott, W. A. の式に基づき算出した。各研究者の一致率の結果は、問 1 に関し 84%、72%、問 2 に関し 79%、73%、問 3 に関し 78%、78%であった。信頼性を確保しているとする基準は一致率 70%以上であることから、それぞれのカテゴリが信頼性を確保していることを示した。

Ⅳ．考　察

授業評価アンケートにおいて、約 9 割の学生が満足･ほぼ満足と回答し、助言教員ゼミ活動において、学生は高い満足度を示した。その満足度に影響した要因について以下に考察する。

カテゴリの関連性の検討の結果、問 1 ～ 3 に共通する 4 つの大カテゴリ≪発表内容・構成≫≪スライド・配布資料の工夫≫≪発表方法≫≪グループワーク力の実感≫が抽出された。大カテゴリの関係性に注目すると、学生は≪グループワーク力の実感≫を基盤として、≪発表内容・構成≫≪スライド・配布資料の工夫≫≪発表方法≫を学び取ったと考えられる。≪グループワーク力の実感≫は、【良好なグループダイナミクス】【グループワークの取り組み方】【グループの団結力】【グループワークを通して培われたスキル】【グループワークの大変さ】で構成されている。そのことから、学生は授業の進行とともにグループワークの大変さを乗り越え、積極的に発言し話し合いができるようになり、グループとして成長しグループワークをすすめる力を培う中で、グループの団結力を実感していたと考える。また、≪発表内容・構成≫≪スライド・配布資料の工夫≫≪発表方法≫のそれぞれの学びが、さらにグループワーク力を実感させるという形で、≪グループワーク力の実感≫と学びが相互に発展的に深まっていったことが、学生の満足度に影響したと考えられる。≪発表内容・構成≫≪スライド・配布資料の工夫≫≪発表方法≫は、プレゼンテーションを通しての学びであり、プレゼンテーションを実施することにより、学生は形にまとめ上げる過程で学びを深め、他のグループの発表を聞くことでさらに視野を広げたと考えられる。大カテゴリとして≪発表内容・構成≫≪スライド・配布資料の工夫≫≪発表方法≫が抽出されたことは、ゼミ活動においてグループ学習にとどまらず、プレゼンテーションまで実施することの重要性が示されたと考える。

「プレゼンテーションから学んだこと：良かった点･参考になった点（問 1）」と「ゼミに対する良かった点・改善点」（問 3）」に共通するカテゴリに注目すると、【今後の学習への動機づけ】【達成感】【教員のかかわりに対する満足感】が抽出された。【達成感】は問 3-1【ゼミ活動の満足感・達成感】を包含している。このカテゴリは、『皆が意見を出し合い討論できた』『グループワークの方法が学べて良かった『それぞれが役割を果たしていて良かった』『協力し合うことができた』などの同一記録単位群から構成されており、グループワーク力に関する内容が中心的に抽出されていることがわかる。また、＜教員のかかわりに対する満足感＞ついては、『的確なアドバイスがあった』『意見調整や進行の手助けがあった』『話し合いを尊重してくれ自由に討論できた』などの同一記録単位群から構成されており、グループワーク力の支援に関する内容が抽出されている。以上のことから、グループワーク力が育まれ学生がそれを実感できたこととグループワーク力を育む支援が学生の満足度に影響したと考えられる。

また、＜達成感＞＜今後の学習への動機づけ＞が抽出されたことは、2008 年の中教審による答申『学士課程教育の再構築に向けて』における「学習の動機づけや習慣形成に向けて、初年次教育の充実を図り、学士課程の中で適切に位置づける」[9] に鑑み、初年次教育としての助言教員ゼミの重要な学習成果であり、その成果が満足度に影響したと考えられる。

V. 結　論

1. 満足度に影響する中心的な要因は、グループワーク力の実感とプレゼンテーションを通しての学びであった。グループワーク力の実感と学びが相互に影響し合いながら、双方を活性化させていた。最終的に学生は達成感を獲得し、今後の学習への動機づけがなされた。そのプロセスが、満足度に影響する要因と考えられる。
2. ゼミ活動において、グループ学習にとどまらず、プレゼンテーションまで実施することが学生の学びを深める上で重要であり、それが学生の満足度に影響すると考えられる。
3. グループワーク力をいかに育み、学生が実感できるように支援できるかが教員の関わりとして重要であり、それが学生の満足度に影響すると考えられる。

謝　辞

本調査は、助言教員ゼミを通しての学生の学びをまとめたものであり、調査にご協力下さった学生の皆様とゼミ指導に携わった看護学科全教員の皆様に深く感謝申し上げます。

引用・参考文献

1）文部科学省中央審議会：http：//www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2008/12/26/1217067_001.pdf：35（2015 年 2 月 22 日現在）
2）前掲 1）：37（2015 年 2 月 22 日現在）
3）岡村千鶴 , 加藤基子 , 清野純子：看護学科の初年次教育における助言教員ゼミを通しての学生の学び , *帝京科学大学紀要* , 10：251-259,2014.
4）前掲 3）
5）前掲 3）
6）Berelson, B.：Content Analysis, in Lindzey,G. Aronson, E.（ed.）：*Handbook of Social Psychology*, v.l, Addison-Wesley publishing Company, Inc.1954；稲葉三千男他訳：*内容分析, 社会心理学講座 7　大衆とマスコミュニケーション* 3, みすず書房 , 東京 , 47, 1957
7）Scott, W. A.：Reliability of Content Analysis：The Case of Nominal Scale Coding, *Public Opinion Quarterly*, 19, 321-325, 1995
8）舟島なをみ：*質的研究への挑戦* , 医学書院 , 東京 , 49, 2000
9）前掲 2）